



# お知らせ

News



## 【AP関連】平成29年度AP第1回セミナー「アクティブ・ラーニングの効果検証」を開催しました

2017年09月22日

9月8日（金）に、関西大学の森 朋子教授を講師としてお迎えし、平成29年度AP第1回セミナー「アクティブ・ラーニングの効果検証」を開催しました。

森先生は、学習研究や学習理論を専門とされ、アクティブ・ラーニング（以下AL）の教授法についての効果研究も実践されています。ALは、学生の学びにどのような効果をもたらすのか、これまでの森先生の研究から得られた知見を中心に講演いただき、さらに、本学での評価システム開発への示唆を得ることを目的として開催しました。本学の教職員や、広島県内外の大学・短大・高専・高等学校などの教育関係者が主となり、計91名が受講しました。



ご講演では、AL型授業の中でも習得型の授業（知識の定着に主眼を置く授業）におけるALに焦点があてられ、深い学びにつながる、より効果的な授業展開への示唆を得るとともに、「なぜALが必要なのか」という点もご解説いただき、理論に基づいたALの意義を再認識することができました。また、学習者の深い学びを促すには予習が大きな意味を持つということ、そして「わかる」という経験の積み重ねが必要であることが示されました。その「わかる」を引き出す授業のポイントとして、「内化（個人）→外化（グループ）→内化（個人）」の流れが重要であることが、森先生のご研究から見てきたとのことでした。

また、AI（人工知能）の発展によって、今後無くなりうる職について昨年話題になったことが取り上げられました。人間には深く学び、経験に基づき論理的・想像的に推論するということが可能であり、これからの教育では、その力を伸ばしていく必要があることが「東ロボ」プロジェクト（国立情報学研究所）から見てきたといいます。ALで学生たちが身につける学びは、今後の社会にとって重要な意味を持つということを考えさせられました。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、ALは「主体的・対話的で深い学び」として表現され、今後教育現場では今まで以上に欠かせないこととして認識されています。そのことから、これからの高等教育機関へ進学する学生は、高校までの学習において、ALの学びを積み重ねてきた学生たちが主となるということ森先生はご指摘なさっていました。高等教育機関としては、ALの意義・効果を認識し、適切な授業デザインによりALを導入していく必要があると感じられました。

参加者アンケートでは、「小さな『わかった』を積み上げることが大事だと理解した」「変わりゆく学力観、次々と提示される能力について、これまで言葉だけの理解でどうも腑に落ちなかったのが、今回の先生のご説明で整理が少しつきました」という教育関係者からの所感がありました。

講師の森 朋子先生、ご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。本学では、今後もこうしたAPセミナーを継続的に開催します。多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

[【アクティブ・ラーニングの効果検証】](#)

[【大学教育再生加速プログラム \(AP\)】](#)

(= AP)

もどる

---

**比治山大学・比治山大学短期大学部** 〒732-8509 広島市東区牛田新町4丁目1-1

[サイトポリシー](#) | [個人情報保護方針](#) | [サイトマップ](#)

Copyright © HIJYAMA UNIVERSITY. All rights reserved.